

ヤマト政権の誕生と発展： 日本の「国家のかたち」が生まれた時代

高校入試の最重要ポイントを3つのテーマで完全攻略！



この3つの視点で、ヤマト政権の全体像を掴む



1. 政治のしくみ

大王を中心に、国はどのように
まとめられたのか？



2. 権力のあかし

その強大な力は、
何によって証明されたのか？



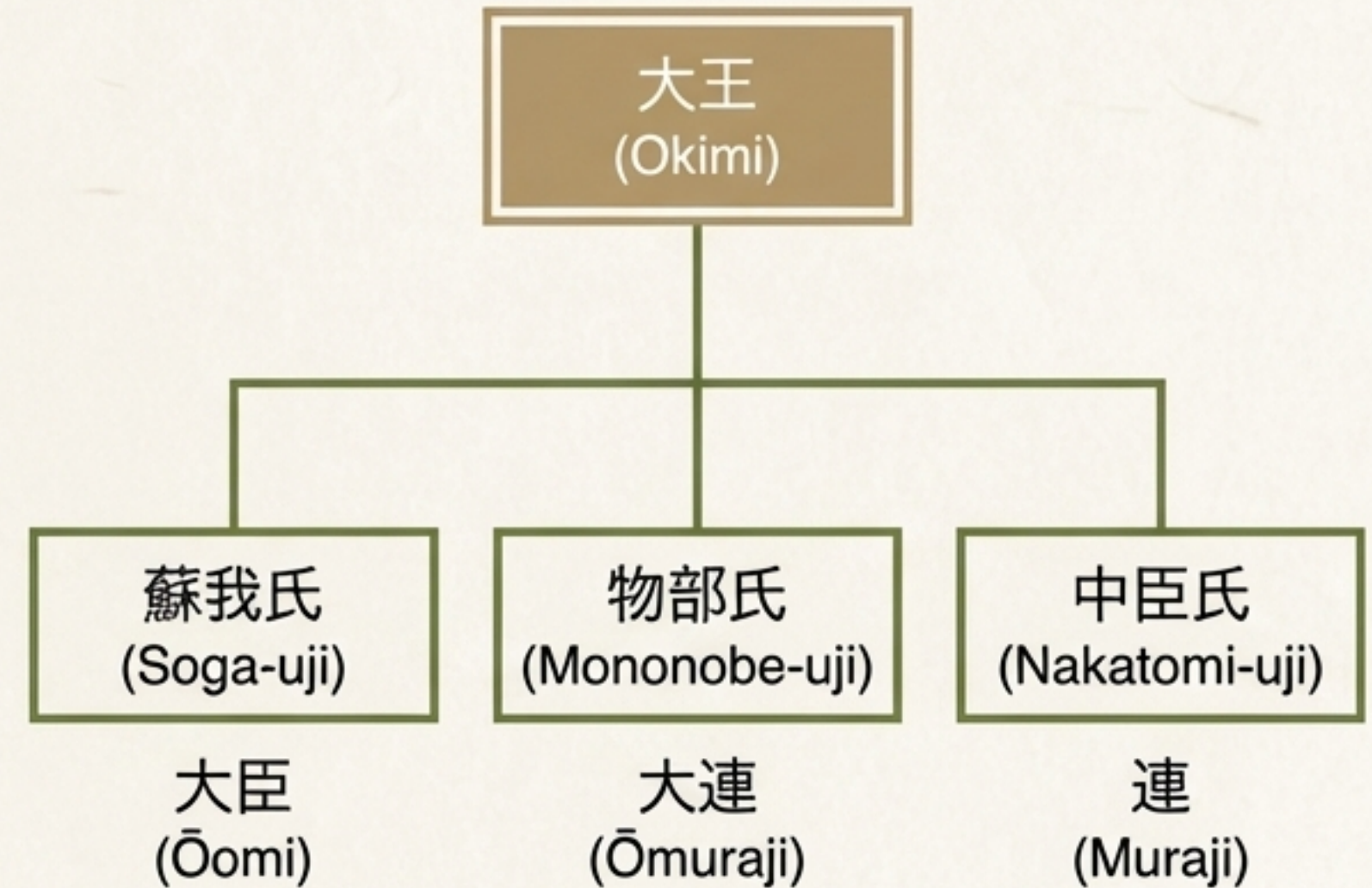
3. 文化の大変革

大陸から伝わったものが、
日本をどう変えたのか？

大王を中心に、日本は一つの連合国家へ

各地の「くに」が連合し、その支配者として**大王**（おおきみ、後の天皇）が登場。大王を中心とした政治のしくみを**大和政権**（やまととせいけん）という。

大和政権は、**氏姓制度**（しせいせいど）によって豪族たちを統制。血縁で結ばれた「氏（うじ）」と、朝廷での地位や役割を示す「姓（かばね）」によって、身分秩序を確立した。



✎ 入試のポイント！！「大和政権」「大王」「氏姓制度」は、この時代の政治を理解するための基本セット！

では、その強大な権力は、
何によって示されたのでしょうか？

巨大古墳が物語る、大王の圧倒的な権力

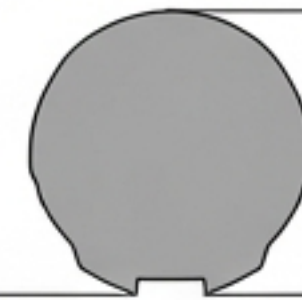
大王の権力の大きさは、墓である古墳（こふん）の規模で示された。

特に大阪府堺市にある**大山古墳**（だいせんこふん）は、世界最大級の**前方後円墳**（ぜんぽうこうえんふん）であり、仁徳天皇の墓と伝えられている。

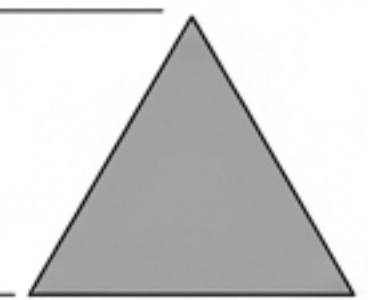
これほど巨大な建造物を作れたこと自体が、大王が広範囲から多くの人々を動員できた強力な支配者であった証拠である。



大山古墳
(486m length)



東京ドーム
(244m diameter)



ギザの大ピラミッド
(230m base)

入試のポイント！：大山古墳 = 大阪府堺市・日本最大の前方後円墳。場所と形、名前をセットで覚えよう！

古墳のまわりには、当時のくらしを伝えるヒントが眠る



武人の埴輪



家形の埴輪



馬の埴輪



円筒埴輪

古墳の墳丘の上や周りには、**埴輪**（はにわ）と呼ばれる素焼きの土製品が並べられた。

埴輪には、家、武具、動物、そして人々の姿をかたどったものがあり、当時の服装や生活の様子を知るための貴重な手がかりとなっている。

入試のポイント！：「埴輪」は古墳とセットで出題される重要語句。

一本の鉄剣が証明した、ヤマト政権の広大な支配領域

古墳時代のもう一つの重要な発見は、特定の名前が刻まれた鉄剣。

遠く離れた熊本県の**江田船山古墳**（えたふなやまこふん）と埼玉県の**稲荷山古墳**（いなりやまふん）から、「**ワカタケル**」と刻まれた鉄剣が発見された。

この発見は、ヤマト政権の支配力が九州から関東地方という広大な範囲にまで及んでいたことを示す、決定的な証拠となった。



「ワカタケル」の名は、九州から関東まで届いていた

ワカタケル大王 ↔ 雄略天皇 ↔ 倭王武

鉄剣に刻まれた「ワカタケル大王」は、歴史書に記されている雄略天皇（ゆうりゃくてんのう）であり、中国の歴史書『宋書』に登場する倭王武（わおうぶ）と同一人物であると考えられている。この3つの名前が同一人物を指すという事実は、ヤマト政権が国内を治めるだけでなく、中国とも外交を行っていたことを示している。



入試のポイント！： ワカタケル = 雄略天皇 = 倭王武
この3点セットは最重要！テストに頻出します。

国のかたちが整う一方、
外からは新しい文化の波が押し寄せる



大陸からの渡来人が、日本の技術と文化を一新した

この時代、朝鮮半島などから多くの渡来人（とらいじん）が日本へ移り住んだ。彼らは、進んだ技術や文化を伝え、日本の社会に大きな影響を与えた。



須恵器（すえき）：硬く、灰色の高温で焼かれた土器



機織り（はたおり）：より質の高い布を生産する技術



漢字（かんじ）：文字による記録や統治の基礎



仏教（ぶっきょう）：新しい思想と宗教、そして芸術

入試のポイント！：「渡来人」が何を伝えたのか、具体例（漢字・仏教など）とセットで覚えておこう！

新しい宗教「仏教」の伝来が、国内の政治対立を激化させる



538年、朝鮮半島の百済（くだら）の聖明王（せいめいおう）から、ヤマト政権へ仏像や経典が贈られ、仏教が公式に伝わった。（※年号には諸説あり）

仏教は単なる宗教としてだけでなく、国家を守るための新しい思想としても期待された。しかし、その受け入れをめぐって、国内の有力な豪族の間で深刻な対立が生まれることになる。

入試のポイント！：538年・百済・聖明王による仏教伝来。この組み合わせは絶対暗記！

仏教受け入れをめぐる、蘇我氏と物部氏の対立



新しい大陸の文化や仏教を積極的に受け入れようとする蘇我氏(そがし)と、古来の神々を重視し、仏教に反対する物部氏(もののべし)が激しく対立した。

この争いは最終的に蘇我氏が勝利し、物部氏を滅ぼした。

結果、蘇我氏は政治的な影響力を一気に強め、これ以後、日本の国家づくりは仏教を中心に進められていくことになる。

入試のポイント！：蘇我氏（賛成）VS 物部氏（反対）→ 蘇我氏の勝利！この対立構造と結果を確実に押さえること。

ヤマト政権の時代が、その後の日本の礎を築いた

ヤマト政権の時代は、3つの大きな動きによって特徴づけられる。



1. 政治

大王のもと、氏姓制度によって国家の「かたち」が作られた。



2. 権力

巨大古墳と鉄剣が、その広範囲にわたる支配力を証明した。



3. 文化

渡来人がもたらした仏教などの新しい文化が、日本を大きく変えた。

【高校入試】古墳時代・最重要キーワード総まとめ

仕組み (Systems)

大和政権

氏姓制度

人物 (People)

大王

ワカタケル (雄略天皇/倭王武)

蘇我氏

物部氏

聖明王 (百濟)

モノ・場所 (Objects/Places)

古墳

前方後円墳

埴輪

大山古墳 (大阪府)

稻荷山古墳 (埼玉県)

江田船山古墳 (熊本県)

文化・出来事 (Culture/Events)

渡来人

仏教伝来 (538年)

漢字

須恵器

重要ポイント (Key Concepts)

- ・ 古墳の規模 = 権力の大きさ
- ・ ワカタケル鉄剣 = 九州～関東の支配の証拠
- ・ 蘇我氏(賛成) vs 物部氏(反対) → 蘇我氏の勝利



そして、仏教を国の中心に据えた 新たな新しい時代、飛鳥時代へ

蘇我氏の台頭と仏教の受容は、天皇（大王）と豪族の関係を大きく変え、
聖徳太子などに代表される、より中央集権的な国家づくりへと
繋がっていきます。